



コールセンターからの小さなよみもの

2017年9月29日

Vol.104

ROE

「ROE」が注目されています！

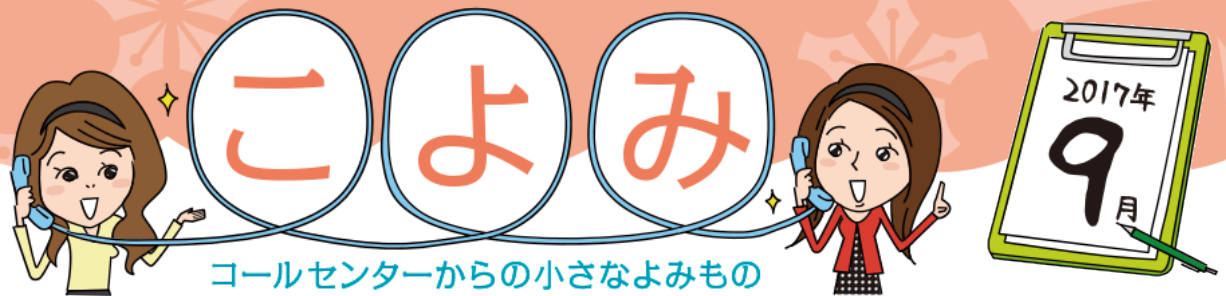
投資をしたいけど、値動きが気になってなかなか踏み出せない…と考えることはありませんか。確かに、市況環境や経済イベント等の影響を受けて、市場が大きく変動することがあります。そうした中でも、魅力のある企業は投資家から注目され、株価は比較的堅調に推移することが期待されます。

とはいえ、魅力のある企業を見つけることは容易ではありませんが、投資魅力を判断する材料のひとつとして、「ROE」という指標があります。そこで今回は、「ROE」について押さえていただきたいと思います。



□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

日興AMファンドアカデミー



コールセンターからの小さなよみもの

ROE(Return On Equity)は、企業の自己資本(株主資本)に対する当期純利益の割合で、自己資本(株主資本)利益率ともいいます。

$$\text{ROE(\%)} = \text{当期純利益} \div \text{自己資本(株主資本)} \times 100$$

企業が、株主から集めた資金をどれだけ効率的に活用しているのかといった経営効率を判断する指標で、投資家から見ると、投資した資金(株主資本)から何%の利益を生み出したかを表すものなので、数値が高いほど収益力が高く、相対的に投資魅力があると考えられます。かつて日本では、売上高や市場シェアという点が重視され、ROEはそれほど注目されていませんでした。しかし、安倍政権が、デフレ脱却や景気回復に向け企業の稼ぐ力を重視するようになり、様々な政策を打ち出したことにより、ROEが注目されるようになりました。まず、機関投資家に対しては、「スチュワードシップ・コード^{*1}」を、企業に対しては「コーポレートガバナンス・コード^{*2}」を導入することにより、意識改革を促しました。加えて、法人税減税や、イノベーション推進等の施策を導入し、企業に収益力を高めるよう促しています。こうした政府の後押しもあり、先月上旬に出そろった上場企業の4-6月期決算では、発表した企業のうち64%が2018年3月期の増益を見込んでおり、純利益は前期比13.6%増になる見通しで、日本企業のROEが高まると期待されています。また、ROEを選定基準に含めた新たな株式指数として、2014年1月にJPX日経インデックス400、次いで2017年3月にはJPX日経中小型株指数の算出も開始されました。

欧米では早くからROEが投資指標として重視されており、2017年8月末のTOPIX(東証株価指数)のROEが9.10%であるのに対し、米国S&P500は14.01%です。欧米に比べ日本企業のROEは低い水準にあります。投資をする上で魅力的な投資先か判断する材料として、ROEに注目してみてもいいかもしれません。

*1: 機関投資家が、顧客から預かった資金を適切に運用する責任を果たすための投資家としての行動原則。投資先企業に対し、企業価値の向上や持続的な成長を促すよう、投資家の立場として努める。

*2: 企業が、株主や顧客、従業員等の関係者に対する取るべき行動原則。「株主の権利・平等性の確保」「株主以外のステークホルダーとの適切な協働」「適切な情報開示と透明性の確保」「取締役会等の責務」「株主との対話」の5つの基本原則からなる。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00